

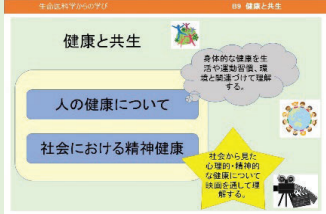
教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-B8 放射線科学への招待		
対象学部	医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	東家 亮	責任部局	医学部医学科
趣 旨	放射線がときに人の健康に大きな影響を及ぼすことは知られていますが、私たちが日常生活の中でいろいろなものから放射線を受けて暮らしていることや、医療分野においては放射線のもつ様々な特性が利用されていることについては知らない人も多いかもしれません。 本モジュールでは、放射線のもつ特性や人に与える影響、およびその特性を利用した放射線診療についてなど、放射線科学について学際複合的にわかりやすく講義します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	Planetary Healthの理念のもと放射線科学について学び、放射線と健康生活、現代社会との関わりについて理解を深める。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	みなさんは放射線についてどんなイメージをもっていますか？ 普段意識されることはありませんが、実は生活の身近にあって様々な分野で役立っています。 放射線科学について一緒に学んでみませんか。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
放射線科学のいろいろ	中島 正洋 高村 昇 横山 須美 工藤 崇 光武 範史 松瀬 美智子 松山 睦美 安東 恒史	放射線科学は学際複合的で基礎生物学から基礎・臨床医学、社会医学等様々な領域を含んでいます。長崎大学で学ぶ学生として、知って欲しい放射線に関する様々なトピックを紹介します。	放射線被ばく、災害・復興、被ばく医療・防護学、リスクコミュニケーション	○
放射線診療を学ぶ	東家 亮 森川 実 江川 亜希子 石山 彩乃 小池 玄文 田崎 裕太郎	放射線科で行われている画像診断や、画像誘導下で行う局所治療、および放射線を使った侵襲性の少ないがん治療について紹介します。	放射線診療 画像診断 放射線治療、がん治療	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	国際・地域社会への関心	人文科学の理解	社会科学の理解
放射線科学のいろいろ	◎				○	○		○	○			○
放射線診療を学ぶ	◎				○	○		○	○			○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	0	0	0	2	2	0	2	2	0	0	2

教養モジュール科目案内

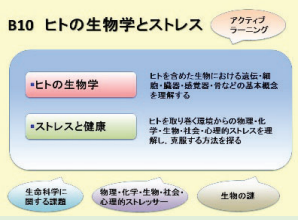
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅠ
テーマ名	24-B9 健康と共生		
対象学部	医学部医学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	折口 智樹	責任部局	医学部保健学科
趣 旨	健康とはただ疾病や傷害がないだけではなく、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態をいう。また健康問題を考えるとき病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる（共生）という視点が重要である。 ここでの「共生」には「多様性」「人権」「リハビリテーション」「社会福祉」も含まれる。 そのためにモジュールⅠでは健康と共生について学ぶための基本的知識について概観する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	環境の人の健康に及ぼす影響や自然災害と精神健康との関連を通してプラネタリーヘルスについて理解する。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、健康問題に関心がある方、ほかの人と協働して学修を進めていくことに関心がある方を歓迎します。受け身の学習態度ではなく積極的な学修態度で臨んでほしいと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
社会における精神健康	永江 誠治 岳 こなみ 南嶋 里佳	精神障害や精神保健に関する基礎的内容を理解し、精神障害をテーマにした映画の視聴・ディスカッション等を通して、社会（又は自然災害）と精神健康との関連について検討する。	シネマ・サイキアトリー、精神保健、精神障害	○
人の健康について	折口 智樹 田中 貴子 澤井 照光	人の健康ならびに健康問題について理解する。健康と生活・運動習慣、環境との関連について検討する。	生活習慣、運動、環境、健康問題	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	国際・地域社会 への関心	取 り 入 り 文 科 学 の 内 容 を	取 り 入 り 文 科 学 の 内 容 を
社会における精神健康	○	◎		○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎
人の健康について		◎	○		○	○	◎	○	◎			○
◎（特に重視）の数	0	2	0	0	1	1	2	1	1	0	0	1
○（重視）の数	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

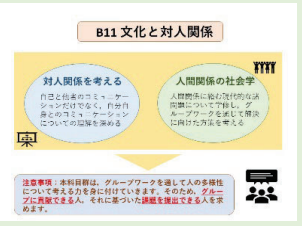
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅠ
テーマ名	24-B10 ヒトの生物学とストレス		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	筑波 隆幸	責任部局	歯学部
趣 旨	人（ヒト）について理解するには、自然科学・社会科学・人文科学などの多面的観点から総合的に把握することが必要であるが、本モジュールでは自然科学の中でも特に生物学・医学・歯学的な観点を中心に、ヒトの特性について理解することを第一の目標とする。テーマ「ヒトの生物学」では、生物の基本的な特性として、生命現象を営む仕組み、遺伝の仕組み、細胞の働きを理解することによって、ヒトについての生物学的特徴の理解を深める。また生命活動を営んでいく上で、生体の全身的なバランスは恒常性によって一定に保たれているが、テーマ「ストレスと健康」では、そのバランスを乱す可能性のある多様な刺激によって生じたストレスが生体にどのように影響を与えるか、また生体はそれらのストレスに対してどのような防御機構を有しているかについて学習する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	「ヒトの生物学」では基本的な体の仕組みというミクロの視点と健康・生命科学のマクロの視点から解説講義を行うことでプラネタリーヘルスの基本編講義となっている。また「ストレスと健康」では人間と環境との関連を物理的、化学的、生物的、心理的、社会的要因から解説するのでプラネタリーヘルスの応用編の講義となる。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は全く問いません。生物としてのヒトについて興味のある方を歓迎します。本モジュールⅠのテーマは、生物学・医学・歯学・環境科学・医用生体工学などに関連する基本的な知識を習得するのに最適です。モジュールⅡで医学・歯学の臨床系などに関連するテーマを受講する予定の方にも推奨します。ただしアクティブラーニングを行いますので発表していただくことになります。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
ヒトの生物学	住田 吉慶 松下 祐樹 永野 健一 片瀬 直樹 井 隆司 森石 武史	ヒトを含めた生物を理解するための基礎的な知識や概念を学習する。特に遺伝の仕組み、タンパク質・脂質・核酸・細胞の働き、味覚、体内時計、骨の役割を理解する。健康、生命科学的課題についてアクティブラーニング法も取り入れて学習する。	遺伝子・タンパク質・脂質・核酸・細胞・味覚・体内時計・骨	○
ストレスと健康	筑波 隆幸 内藤 真理子 佐藤 啓子	ヒトを取り巻く環境からの物理化学的ストレスについて学習するとともに生命体としてそれらのストレスにどのように対処し、克服しているかについて理解する。	紫外線・活性酸素・感染・老化・神経系・内分泌系・免疫系	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会の関心	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
ヒトの生物学	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	○
ストレスと健康	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	1	2	1	1	1	2	2	0	0	0
○（重視）の数	0	0	1	0	1	1	1	0	0	2	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

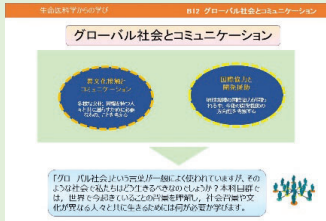
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-B11 文化と対人関係		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	當山 明華	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	人と人が関わる際には、コミュニケーションは必要不可欠なスキルです。これは社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くのスキルのなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ててきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーション状況を明らかにし、その上で各自のコミュニケーションスキルをより機能的なものにしていくことが有効です。 本科目群では、前半で心理学の分野からコミュニケーションが生じる状況について理解し、後半は社会学の分野からコミュニケーションの深い理解に基づいた実践力向上を目指します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	社会が抱える問題について、社会学と心理学の知見を用い、様々な学部の学生同士がグループワークを行うことによって、新たな解決策を探る。		
学生の皆さんへのメッセージ	本科目群は大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる思考力・分析力・コミュニケーション力など、様々な基礎能力を育成することを目指しています。そのため、この科目群では皆さんの積極的な参加が不可欠です。 授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められ、授業後の課題提出も重要です。受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。		
		説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
対人関係を考える	當山 明華	自己と他者とのコミュニケーションだけでなく、自分自身とのコミュニケーションについての理解を深める。グループワークを通して、人の多様性や社会との関わりを理解し、生活に活かす。	思考パターン、意思決定、対人コミュニケーション、社会的ジレンマ	○
人間関係の社会学	岡田 佳子	人間関係に絡む現代的な諸問題について学修し、グループワークを通じて解決に向けた方策を考えていく。また、そこでの関わりから、人の多様性について考える力を身に付ける。	文化的再生産、学校文化、ジェンダー、ファシリテーション	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
対人関係を考える	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	
人間関係の社会学		◎	○		◎		◎	○	◎			○
◎（特に重視）の数	1	2	1	1	1	0	2	0	2	0	0	0
○（重視）の数	0	0	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅠ
テーマ名	24-B12 グローバル社会とコミュニケーション		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	遠山 峰司	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	このモジュールでは、国際協力という視点からグローバル社会をより深く理解するための知識と教養だけでなく、自らの考えを伝え相手の考えに共感できる相互理解を進める方法を身につけます。具体的にはグローバル社会の多様性を理解するために、地球上で今なお貧困による経済、社会的困難に苦しんでいる人々に対して世界がどのように対処しているかを開発援助の面から学びます。そして、現代社会で求められる異文化とのコミュニケーションも受講することによって、グローバル化された世界における社会の状況とそこで活躍するために求められる能力は何か理解を深めます。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進展する中、日本人も異なる文化、歴史、習慣を持つ人々との社会での共生と無縁ではられません。従って、これからは日本社会もグローバル社会の一部であるという認識が必要であり、このモジュールでは国境、国家にとらわれず地球規模で活躍する人材の育成を目指しています。そこでは語学力だけでなく、自身が目指す人材に必要なとなる基礎的な知識や教養、更には国籍問わず社会背景、文化が異なる人々とのコミュニケーション能力を持つことが求められます。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
国際協力と開発援助	遠山 峰司	現在の国際援助の枠組みは第二次世界大戦後の復興支援を通じて形成され、日本の開発途上国への協力も国際情勢の影響を受けてきた。そして、国際社会が政治、経済、文化の面でますますグローバル化する中、現在は先進国、途上国、加えて官民間で地球規模での国際協力のあり方が問われている。この科目では日本の政府開発援助（ODA）を中心とした開発協力の役割と現状を理解した上で今後の国際援助の方向性を考察する。	国際協力 開発援助 政府開発援助（ODA） JICA 民間連携 市民参加	○
異文化接触とコミュニケーション	古本 裕美	現在、長崎大学には約 500 名の外国人留学生がいる。長崎や日本に観光に来る外国人、日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、我々が街で外国人に会う機会も今後ますます増えることだろう。この科目では、まず、“やさしい日本語”を学び、自分が普段使っている日本語やコミュニケーションの仕方を振り返る。その後、外国人を含め、いろいろな人が共に暮らすために必要なもの・ことについて考える。	日本語 “やさしい” コミュニケーション 社会	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
国際協力と開発援助	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
異文化接触とコミュニケーション	○	○			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
◎（特に重視）の数	0	0	0	1	1	0	2	2	2	2	1	1
○（重視）の数	2	2	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1